

こんな日本、大嫌いです

品性が失われ、悪くなつてゆくだけ

マナーが悪いのは、若者より、むしろ中高年ではないか。車内で、大声で携帯電話を使い、我先にと空席に突進する。自分さえよければ、という大人のなんと多いことか。軽薄で、品性のない社会。それがニッポンとは。

ヘアメイクアップ・アーティスト

田中宥久子

●たなか・ゆくこ 1946年福岡県生まれ。顔の筋肉に圧力をかけてマッサージする「造顔マッサージ」を考案し、多くの女性の支持を得る。著書に『田中宥久子の造顔マッサージDVD付きBOOK』（講談社）など。

人の心につけこむビジネス

長年、人を美しくする美容の仕事に携わっていますが、性別も年齢も関係なく、若くありたい、美しくありたいと願う気持ちはどの年齢にも共通で、しかもとても切実であることを知っています。

しかし「若く美しくありたい」と

いう人の思いにつけこんで、美容がどんどん金儲けの手段になっていることは腹立たしいですね。

アンチエイジングも、「若々しくありたい」と願う人の心につけこんだビジネスになってしまっています。歳をとると「こんなことが起こる」「こんなふうになる」と不安や危機感を煽る情報ばかりが流され、古いへの恐怖を感じてしまつて人が多くい

ます。

美容を商売にしている側は、手を代え良品を代え、歳をとることへの恐怖心をまき散らし、それに乗せられて高額のお金をつぎ込む人たちがいる。こうした構図に、美容家として怒りを感じます。

美容整形やプチ整形は、一度やれば、その顔を維持するための継続が必要で、当然お金もかかります。

エイジングとは、本来、歳を重ねることに充実感を感じ、内面が深まってゆくことを楽しんで生きていくことを意味するのだと思います。ですからエイジングはアンチではなく、ハッピーでなければいけないのです。

老いた顔には深みが生まれ、味わいも出てくる。若さは失われていきますが、若さだけでは得られない、歳を重ねたからこそその美を持つようになります。

シワだって内面を充実させてきたことの証なんです。老いることに、

いたずらに恐怖や不安を感じたり、卑下したりすることなど必要ないのです。シワが刻まれた自分の顔を誇りに思い、堂々と歳を重ねていけばいいのです。

儲ければ何をしてもいいのか

私が独自の「造顔マッサージ」のメソッドを考案したのは、「お金をかけなくても、自分の手できれいになることができる」「自らの手で、どうぞきれいになってください」と

いう思いからです。

誰もが自宅で実践できるように、「造顔」方法をDVD付きの本に出したのも、自分の手でやってほしいからです。

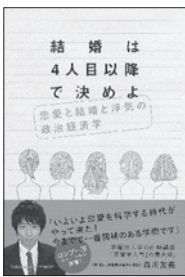
しかし、この「造顔」が、私の知らないところで集客の手段として勝手に使われている。DVDを見て、やり方をマスターし、「造顔マッサージ」をメニューに営業しているエステティックサロンが後を絶たないのです。「造顔」は商標登録されたものですから、そもそもその名称を

結婚は4人目以降 で決めよ

恋愛と結婚と浮気の
政治経済学

早稲田大学国際教養学部教授
森川友義

978-4-620-32032-8



定価1575円(税込)

毎日新聞社

〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
http://books.mainichi.co.jp/

早稲田大学の白熱講座「恋愛学入門」の集大成。結婚市場で自分を「安売り」しないため、いまこそ恋愛を科学せよ！

ロンブー淳推薦！